

平成25年度社会福祉法人花ノ木事業報告書

平成25年度は、花ノ木創設45周年の節目に当たり、各種記念事業を開催し、花ノ木医療福祉センター理念を再編、継続的な発展を誓い合いました。

今日、社会福祉法人に求められることは、良質な福祉・医療サービスを提供することであり、個人の尊厳を踏まえ自立支援につながる処遇を実現すること。

さらに、地域の生活課題や福祉課題に対し積極的に取り組み、地域へのサービス提供拠点としての役割を果たすこととあります。このことを、念頭に置きつつ、平成25年度経営方針に基づき、取り組みました。

1、「人権の尊重」

児童福祉の保障の原理及び障害者福祉の基本理念に基づいて個人の尊厳にふさわしい生活を保障し、生きる権利を保障するための生活支援と医療ケアに努めてきました。

2、「支援サービスの質の向上」

利用者や家族の思いを十分尊重した生活支援サービス及び保健医療サービス、その他関連するサービスとの有機的な連携を図りきめ細かいサービスの提供に努めてまいりました。個別支援計画を作成し保護者に対する説明を行い1人ひとりの状況に合った支援を実施しました。生活環境の整備として、1病棟に天井走行リフトの増設、2病棟にミストシャワー浴槽を新設、3棟に居室をフロアーマット化するなど生活支援サービスの向上を図りました。又医療支援サービスにおいてはベットサイドモニター及び中央監視装置等の更新を行い医療サービス環境の整備を図りました。

3、「地域福祉の推進」

市町及び関係諸団体、諸機関との連携を図り、地域療育支援事業、短期入所事業、通所事業、児童発達支援事業及び地域情報発信事業として発達障害者の就労支援学習、重度障害児・者の給食について、障害児・者の絵画、陶芸教室などを開催するなど、地域に開かれた施設となるための取り組みを着実に進めてきました。

また、喀痰吸引を行う事業所が身近にないなどの声も聞かれることから、公益事業として介護職員等の「喀痰吸引研修事業」を開始、本年度2回研修実施により、15人の資格取得者を輩出しました

4、人材育成

人材確保及び育成のため、京都府「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証を受けるなど研修に積極的に取り組み、各専門領域における技術や知識の向上を図り、それぞれの職種がスキルアップに取り組み研修報告会を開催し関係職員との情報共有を図りました。(所内研修参加人数延 893名、派遣研修 143箇所、参加人数延 246名)

さらに、人事評価(能力評価、業績評価)を次のとおり実施し併せて職員の育成面談のうえ、職員の資質の向上に取り組みました。(実施人数＝正規職員:能力評価 170名、

業績評価 173 名、臨時職員：能力評価 87 名)

5、財政基盤の安定

社会福祉の担い手としての公益性を発揮し、安定した支援サービスを提供し、地域の信頼を得るため財政基盤の安定に努めました。そのため、効果的な経費の使用と財源の確保に努めてきました。その結果、財務状況（資金収支状況）は、収入合計、2,338,887 千円、支出合計、2,302,393 千円となり当期資金収支差額は、36,494 千円となり、当期末支払資金残高は、574,050 千円を確保しました。

6、施設設備の整備

障害児や保護者の要望に応え南丹地域における発達障害児の支接待機を解消するため児童発達支援センターの整備を図りました。

施設概要は、建物構造、鉄骨造、規模地上 2 階、敷地面積 990.82 m²、延べ面積 1122.19 m²で指導訓練室、フリー教室などを配置し利用者の利便性と療育環境に配慮した施設となっています。総事業費 3 億 7 千万円であります。

以 上